

Salon

Vol.154 2025年1月 新春号



ホール3F壁画 ポール・ゴアマン作「アダムとイヴ」

- CONTENTS
- 01 Prime Interview — ヴェローナ・クアルテット
 - 03 Phoenix Presents — ティータイムコンサート2025
曲がった家を作る人—故郷に響く西村朗の音楽
 - 06 Pick Up
 - 07 Essay de say — 西村 朗、曲がった家を作る人 小味渕彦之

ヴェローナ・クアルテット



©Dario Acosta

ヴェローナ・クアルテット (Verona Quartet / 弦楽四重奏)

ジョナサン・オン、ドロシー・ロー(以上ヴァイオリン)、アビゲイル・ロジャンスキー(ヴィオラ)、ジョナサン・ドーマンド(チェロ)

ウィグモアホール、大阪国際室内楽コンクールでの入賞で国際的な名声を高め、2020年にクリーヴランド・クアルテット賞の受賞で「大胆な解釈力、強い個性と堂々とした響き」と評されたアメリカの若手を代表するアンサンブル。カーネギーホール、リンカーンセンター、ケネディセンター、ウィグモアホール、メルボルンなど4大陸で出演して聴衆を魅了し、数多くの音楽祭にも参加している。シンガポールのヨン・シュー・トー音楽院、マサチューセッツ工科大学などにも招聘されている。クアルテット・イン・レジデンスとして教鞭を執るオーバーリン大学に加えて、ルーネンバーグやノースカロライナでもレジデンスを務める。近代音楽の普及に加え、異文化間とのコラボレーションに熱心に取り組んでいる。デビューCDである、ヤナーチェク、ラヴェル、シマノフスキーを収録したDiffusionは、BBCミュージックマガジンに「まぶしいほどの輝き」と称賛された。

ザ・フェニックスホールに集う トップアンサンブルシリーズ2024-2025 ヴェローナ・クアルテット

2025年3月1日(土)15:00開演(14:30開場)

会場 読売テレビ10hall

一般5,000円 友の会会員4,500円

学生(25歳以下)1,500円 自由席

■曲目

ベートーヴェン:

弦楽四重奏曲 第8番 木短調

「ラズモフスキー 第2番」op. 59-2 ほか

■チケットのお求め・お問い合わせ

ザ・フェニックスホールチケットセンター

06-6363-7999

(平日10:00~17:00、土日祝休)

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールでは、照明・音響設備、エスカレーター等の改修工事のため、2025年2月5日(水)から2025年4月30日(水)の間休館させていただくこととなりました。これにより、2025年3月1日の公演は読売テレビ10hallで公演を開催いたします。

読売テレビ本社ビル



読売テレビ10hall 座席数242席



読売テレビ 10hall

〒540-8510 大阪市中央区城見1丁目3番50号 読売テレビ本社屋1F 電話 06-6947-2184

クアルテットの楽譜の下に ひとつになる4つの異文化の個性

世界最初の「常設プロ弦楽四重奏団」は、ベートーヴェンの弦楽四重奏曲創作を助け、《ラズモフスキー》セットやシューベルトの《ロザムンデ》を初演したシュパンツィヒ・クアルテットとされる。現存するあらゆる常設クアルテットのルーツがそこに到ると言われる元祖常設弦楽四重奏団から230余年、数多の名だたる名団体がヴァイオリン2とヴィオラ、チェロの楽譜に人生を捧げ、その内容を深め、人々に感動を与え続けてきた。

だが、意外かもしれないが、21世紀も四半世紀が過ぎた現在、弦楽四重奏を職業として生きる道筋がまがりなりにも敷かれているのは、北米大陸だけなのである。学生が結成するグループが、演奏技術を学び、ポジションをアップしつつ小規模自主運営団体としてのマネジメント能力を身に付け、最終的には大学レジデンシヤやファカルティという安定した地位を獲得する——そんな経験の積み方そのものが、弦楽四重奏団の「伝統」なのだ。

ヴェローナ・クアルテットは、21世紀北米の「伝統」の最先端にいるライジング・スターである。創設以来ヴァイオリンを務めるジョナサン・オンはこう語る、「私たちに独自のサウンドがあるとすれば、それは旧世界の室内楽のあり方と、フレッシュな音楽的な探求精神との融合でしょう。クリーヴランド・クアルテット、ジュリアード・クアルテット、パシフィカ・クアルテットなどの20世紀と21世紀の傑出した弦楽四重奏団と学んできた私たちは、先輩達の音楽作りの遺産と伝統を継承します。その一方で、私たち4人にははっきりした音楽上の個性があり、常に新しい表現を探しています。4人がそれぞれの個性を持ち込み、ヴェローナ・クアルテット独特のあり方へと導く集合体となるのです」

インディアナ大学ジェイコブス校に集まった4人の若い弦楽器奏者が、憧れの弦楽四重奏を目指し試練の道を歩み始めた。勿論、伝統のルーツは旧大陸だ。結成直後からグループとしての資質を見込まれた若者らは、ベートーヴェンの故郷へと修行に出る。「私たちは学校からボンのベートーヴェン・ハウスに派遣され、そこでベートーヴェン研究者と学びました。この滞在は私たちにとって

決定的でした(オン)」

若者達が滞在了したのは、20世紀のドイツで偉大な芸術パトロンだったハンス・ヴァスマートの邸宅だった。ドイツでの経験のオマージュから自分らの弦楽四重奏に想い出の館の名を冠し「ヴァスマート・クアルテット」と名付った若者達は、いよいよ本格的に活動を開始。まずは翌年の大阪国際室内楽コンクール&フェスタに挑戦し3位を獲得、自分らの音楽への手応えを得た。その後、些か発音が困難だった名を、ヴェローナ・クアルテットに改める。「ヴェローナという名前は、シェイクスピアが「ロメオとジュリエット」などで吐露したその街への愛に共感したからです。私たちにとって、演奏とは音で語る行為です。それ故に、史上最大の語り手であるシェイクスピアへの讃辞は惜しみません(オン)」



第8回大阪国際室内楽コンクールでの演奏

常に美しい響きを保ちつつも基本に忠実なアンサンブルは、メルボルン国際室内楽コンクール3位、ロンドン国際音楽コンクール2位と、メジャー大会での成果を積み上げていく。その結果、ジュリアード音楽院レジデンシヤ、ニューイングランド音楽院クアルテット養成コースレジデンシヤと、多くの先輩クアルテットが歩んだ北米での王道を進むことになる。

同じ道を辿った先輩らに教えられ、自分らもより若い学生に教えるクアルテット専門家としての徒弟時代、学生時代を終えた常設クアルテットの仕事は、弾いているだけでは済まない。4人が自主的に練習時間やツアー日程の管理をし、営業し、広報まで行わねばならない小型ベンチャー・ビジネスなのだ。音楽に専念したいなら、オーケストラや教職など雑務の少ない別の道もあろう。そうして、大阪の初夏を知るメンバーもいつか半分と

なった。「メンバー探しで最も大事なものは、似た思考や価値観です。ヴェローナ・クアルテットの音楽作りと合致するエトスをもちつつ、グループとして成長出来る特別な何かや刺激をもたらしてくれる音楽家であること。時間と共に、私たちのサウンドは変化し、成熟してきたでしょう。とてもオーガニックで自然な進展と感じています。私たちは、そんな変化をととても喜んでいきます(オン)」

ヴェローナ・クアルテットにとって、最後の大きな試練はコロナ禍だった。アンサンブル練習が禁止され、競い合った同僚たちばかりか経験豊富な先輩らまでもが活動を休止せざるを得ない状況を、オーバーリン大学音楽院ファカルティとして互いを深く知る時間に費やす。「実際のところ、弦楽四重奏団が続かない理由の多くは、音楽的なことではなく人間関係です。同じ文化背景の4人であろうがなかろうが、効果的なコミュニケーションの取り方を学ぶことが、弦楽四重奏を続ける最も大事な要素ですね(オン)」

そして今、ヴェローナ・クアルテットはいよいよ世界に向かう。正確さと熱さを併せ持ったヴァイオリンのシンガポール人、それをしっかりコントロールする端正なアジア系カナダ人、ユダヤの血を引くカリフォルニアのヴィオラ、全体のムードメーカーたる英国のチェロ。正に国際的チームだ。「4人の背景の違いは私たちにとって大きな楽しみです。巧みにコミュニケーションを取り、お互いの違いを理解することで、人間としても音楽面でも、より深く関わられるようになっていきます。私たちは一緒に大きく成長してきました(オン)」

シュパンツィヒ大先輩から続く弦楽四重奏の楽譜への信頼が、異なる個性や背景をひとつにしていく。「偏った見方かもしれませんが」と周囲に気配りをしつつも、ヴェローナ・クアルテットは断言する。「弦楽四重奏こそ存在する最も素晴らしい音楽文献だと信じています(オン)」そんなオンの当面の夢は、故郷シンガポールでの初のベートーヴェン弦楽四重奏全曲演奏という。まずは、久しぶりの日本でベートーヴェン。

渡辺和(音楽ライター)

2025年度 ティータイムコンサートシリーズ [175]~[180]

今年から金曜日以外にも開催します！ 平日14:00開演 指定席 お菓子つき

友の会会員年間セット券は、とってお買い得！チケットご予約時にもご入会いただけます。

平日午後2時スタートのコンサート。都心に立地し、抜群の交通アクセスで関西一円から多くの皆様においでいただけるホールの特性を生かし、1995年のホール開設以来、お楽しみいただいています。一流のアーティストを起用し、昼間の気軽な雰囲気、夜の演奏会にも劣らぬ上質な「生」の音楽をお届けいたします。

2025年度も6公演をラインナップ。期待の若手から円熟されたベテラン奏者まで様々な室内楽をご用意しました。お得な年間セット券で、ザ・フェニックスホールが自信をもって贈る「スペシャル・マチネ」をどうぞ堪能ください。

年間セット券
一般 ¥24,000

友の会会員 ¥20,000
(お一人様2席まで)

※年間セット券・学生券(25歳以下)は当ホールチケットセンターのみのお取り扱い。
※2/1(土)~3/14(金)は、6公演同じ席でのご予約受付となります。
■1公演毎のご購入も可能です。
発売日は右の表でご確認ください。

	ザ・フェニックスホール 友の会先行予約	一般発売
セット券	2025年 2月1日(土) 10:00受付開始	2025年 2月7日(金) 10:00受付開始
1回券 6/20,7/24,10/17公演分	2025年 3月15日(土) 10:00受付開始	2025年 3月21日(金) 10:00受付開始
1回券 11/28,1/22,2/27公演分	2025年 7月12日(土) 10:00受付開始	2025年 7月18日(金) 10:00受付開始

*インターネット予約によるお申込みは、セット券、1回券とも一般発売日翌月曜日から。
*各発売日初日は、電話予約のみのお申込みとなります。

公演チケットのお申し込み方法

お申し込みは
お電話 06-6363-7999 またはご来店
土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00
2/1(土)・3/15(土)・7/12(土)は友の会先行予約のため特別営業。

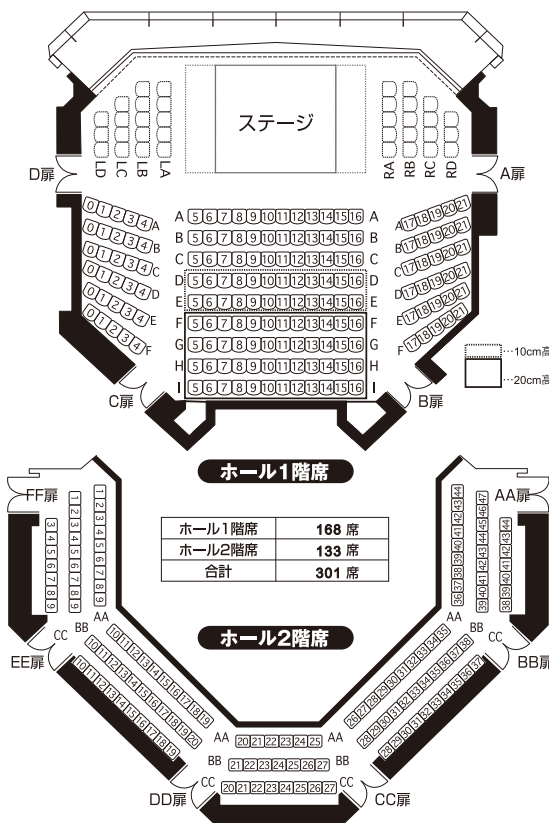
■ チケットお申込み後のお受け渡し方法

- 下記①または②のどちらかとなります。
- お申込み日から10日以内にザ・フェニックスホールチケットセンターへご来店ください。
営業時間は土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00です。
 - 先に郵便振込みをさせていただき、入金確認後チケットをご郵送させていただきます。
皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいてから約10日後となります。
その際、振込手数料はお客様にてご負担ください。
尚、郵送は簡易書留(一律470円)のみとさせていただきます。

振込口座
00940-0-95351

加入者名
ザ・フェニックスホール

ザ・フェニックスホール
チケットセンターは、
ビル8階、
エレベーターを降りて
廊下右側です。



改修工事に伴う休館のお知らせ

照明・音響設備、エスカレーター等の改修工事の施工のため、下記のとおり休館させていただきます。

【休館期間】2025年2月5日(水)~2025年4月30日(水) ホール事務所、チケットセンターは通常通り営業いたします。

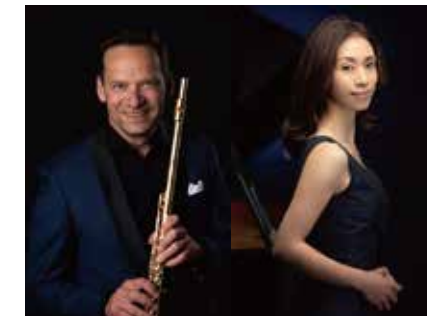
175

6/20 金

ウィーンフィル首席奏者の矜持を聴く

ワルター・アウアー
フルートリサイタル

一般 ¥4,500 友の会 ¥4,050 学生 ¥1,500



■出演
ワルター・アウアー(フルート)、沢木良子(ピアノ)

■曲目
ボルヌ:カルメン・ファンタジー
シューベルト:「しばめる花」の主題による序奏と変奏曲
マルタン:バラード
プーランク:フルートソナタ
プロコフィエフ:フルートソナタ 二長調 op.94

176

7/24 木

フランスの至宝、至極のピアノイズム

パスカル・ロジェ
ピアノリサイタル

一般 ¥5,000 友の会 ¥4,500 学生 ¥1,500



■出演
パスカル・ロジェ(ピアノ)

■曲目
ラヴェル:亡き王女のためのパヴァーヌ
ラヴェル:鏡
ラヴェル:ソナチネ
ドビュッシー:前奏曲集 第1巻

177

10/17 金

ドイツ拠点の正統派

アマリリス弦楽四重奏団

一般 ¥5,000 友の会 ¥4,500 学生 ¥1,500



■出演
グスタフ・フリーリングハウス、レナ・サンドゥ(以上ヴァイオリン)
マライケ・ヘフティ(ヴィオラ)
イヴ・サンドゥ(チェロ)

■曲目
モーツァルト:弦楽四重奏曲 第23番 へ長調「プロイセン王 第3番」K590
バルトーク:弦楽四重奏曲 第6番
ブラームス:弦楽四重奏曲 第2番 イ短調 op.51-2

178

11/28 金

まさに天上の音色、大注目のオーボエ奏者

荒木奏美
オーボエリサイタル

一般 ¥3,500 友の会 ¥3,150 学生 ¥1,000



■出演
荒木奏美(オーボエ)、津田裕也(ピアノ)

■曲目
モーツァルト:アリア「ああ、情け深い星たちよ、もし天にいて」K538
メンデルスゾーン:無言歌集より 抜粋
クララ・シューマン:3つのロマンス op.22
ラヴェル:ハバネラ形式の小品
ドビュッシー:美しき夕暮れ
プレヴィーユ:オーボエとピアノの為のソナチネ
バスクリ:「シチリア島の夕べの祈り」の主題による大協奏曲

179

2026 1/22 木

柔らかな響きに包まれて

新倉瞳&大萩康司
チェロとギターの調べ

一般 ¥4,000 友の会 ¥3,600 学生 ¥1,000



■出演
新倉瞳(チェロ)、大萩康司(ギター)

■曲目
ヘンデル:オンブラ・マイ・フ
シューベルト:アルペジオネソナタ イ短調 D821 ほか

180

2026 2/27 金

関西出身、ピアノトリオ最高峰

葵トリオ

一般 ¥4,000 友の会 ¥3,600 学生 ¥1,000



■出演
小川響子(ヴァイオリン)、伊東裕(チェロ)、秋元孝介(ピアノ)

■曲目
ブラームス:ピアノ三重奏曲 第3番 八短調 op.101 ほか

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール 住友生命いづみホール 日本室内楽振興財団 3団体合同企画
曲がった家を作る人ー故郷に響く西村朗の音楽

西村朗という作曲家がいた。とてつもなくパワフルで、とてつもなくオリジナル、そしてとてつもなくヒューマンな音楽を書く作曲家である。2023年、どうしたのか、彼は突然姿を消してしまった。もう会うことができないのだと思うと、だいぶ時間がたった今でも、とても悔しく、辛い。しかしその作品は今も遺っている。とするならば、われわれはこれからも西村朗を聴きつづけ、そのサウンドの奇跡に驚きつづけなければならない。彼の故郷、大阪で行なわれるこのシリーズは、これ以上ない形で西村朗の音楽を伝えるものになるだろう。恐ろしいまでに複雑なヘテロフォニーに満ちた弦楽四重奏曲群(7月6日)、国籍不明・正体不明のエネルギーがホール中に放射される打楽器作品群(7月10日)、そして最後に完成させた三重協奏曲「胡蝶夢」を含む巧緻な室内オーケストラ作品群(7月12日)。どのプログラムにも、彼の視た音が、夢が、世界がぎゅっと詰まっている。この3日間、西村朗は甦る。 沼野雄司(音楽学者)



3公演セット券
一般 ¥11,000 (限定数・セット券の友の会会員割引はありません)
 【セット券販売場所】ザ・フェニックスホール、住友生命いづみホール
 ※ザ・フェニックスホールでは、「パーカッション・アンサンブル」と「室内オーケストラ」の座席は選べません。

セット券発売日
 ザ・フェニックスホール 友の会先行予約 **2月1日(土) 10:00受付開始**
 一般発売 **2月7日(金) 10:00**

※発売初日は電話予約のみのお申込みとなります。
 ※【セット券販売期間】2/1(土)~6/30(月)

弦楽四重奏 会場 **あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール**
 2025年 **7月6日(日) 15:00開演 指定席**

■料金 一般4,500円(友の会会員4,050円) 学生(25歳以下)1,500円
 ■出演 郷古廉、石上真由子(以上ヴァイオリン)、大野若菜(ヴィオラ)、横坂源(チェロ)
 ■曲目 弦楽四重奏のためのヘテロフォニー(1975/1987)
 弦楽四重奏第2番(光の波)(1992)
 青い龍 弦楽四重奏のための(2019)【日本初演】
 弦楽四重奏 第4番〈ヌルシン八(人獅子)〉(2007)

公演に関する問い合わせ: ザ・フェニックスホールチケットセンター Tel 06-6363-7999

単独券: 友の会先行3/15(土)~、一般3/21(金)~発売

パーカッション・アンサンブル 会場 **読売テレビ 10ホール**
 2025年 **7月10日(木) 19:00開演 指定席**

■料金 一般4,000円 学生2,000円 *単独券のお求めは、チケットぴあ
 ■出演 Soai Percussion Ensemble
 〈中谷満、宮本安子、畑中明香、川向志保、松本優輝、石垣真結子、落合空千、小野竜聖、花田帯、星山理奈、高真炫、川久珠寿、林杜馬、松本知暁(以上パーカッション)〉
 片岡リサ(十七絃箏)
 ■曲目 翼(カムナギ) 十七絃箏と打楽器のための(1992)
 エクタル 3人のマリimba奏者と2人の打楽器奏者のための(1992) キトラ 8台のマリimbaのための(2019) ベンタ 5人の打楽器奏者のための(2020)
 ケチャ 6人の打楽器奏者のための(1979)

公演に関する問い合わせ: 日本室内楽振興財団 Tel 06-6947-2184

単独券: 一般2/14(金)~発売 取扱: チケットぴあ
 ザ・フェニックスホールでは単独券の取り扱いはありません。

室内オーケストラ 会場 **住友生命いづみホール**
いづみシンフォニエッタ大阪
第54回定期演奏会「西村朗ー魂の軌跡」
 2025年 **7月12日(土) 16:00開演 指定席**

■料金 一般5,500円 住友生命いづみホールフレンズ4,900円 U-30(30歳以下)1,000円
 *単独券のお求めは、住友生命いづみホールチケットセンターほかプレイガイド
 ■出演 飯森範親(指揮)、いづみシンフォニエッタ大阪、小栗まゆ絵(ヴァイオリン)、篠崎和子(ハーブ)、上田希(クラリネット)、太田真紀(ソプラノ)
 ■曲目 室内交響曲 第1番(2003)
 三重協奏曲〈胡蝶夢〉〜ヴァイオリン、ハーブ、クラリネットと管弦楽のための〜(2023)
 室内交響曲 第5番〈リンカネーション(転生)〉(2015)

公演に関する問い合わせ: 住友生命いづみホールチケットセンター Tel 06-6944-1188

単独券: 一般2/14(金)~発売 取扱: 住友生命いづみホールほかプレイガイド
 ザ・フェニックスホールでは単独券の取り扱いはありません。

フレイブント **西村朗を語る** 2025年6月4日(水) 19:00開演 自由席 会場 **読売テレビ10ホール** **2/7(金)10:00~受付**

■出演 沼野雄司(音楽学者)、池辺晋一郎(作曲家)、小味潤彦之(音楽評論家) ■料金 無料/要事前申込(先着260名様)
 右記のQRコードからお申込みください。 <https://business.form-mailer.jp/lp/191df1db266569>

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛公演のご案内 ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

協賛公演 **田中正也ピアノリサイタル「ラ・カンパネラ」**【大阪公演】 主催 raconte

発売中 2025年5月4日(日) 13:30開演 指定席
 前売・当日 ¥4,000(友の会会員¥3,600)

出演 田中正也(ピアノ)
 曲目 J.S.バッハ(ケンパ編):主よ、人の望みの喜びよ
 ショパン:幻想即興曲 嬰ハ短調 op.66、バラード 第3番 変イ長調 op.47、エチュード op.10-12「革命」
 チャイコフスキー(プレトニョフ編):コンサート組曲 バレエ「くるみ割り人形」
 モーツァルト:きらきら星変奏曲
 リスト:ソナタ 短調、ラ・カンパネラ

今年で4年目 raconteがお届けする大人気企画!
 国際ピアノコンクール受賞多数!
 “超絶技巧”ピアニスト田中正也が“人気楽曲”で構成されたプログラムで魅せる、珠玉のリサイタル!

協賛公演 **大谷康子&イタマール・ゴラン** 主催 大阪新音・株式会社フロンティアーズ

1/23(水)発売 2025年5月11日(日) 14:00開演 指定席
 前売・当日 ¥5,000(友の会会員¥4,500)

出演 大谷康子(ヴァイオリン)、イタマール・ゴラン(ピアノ)
 曲目 ブ람ス:ヴァイオリンソナタ 第1番 ト長調「雨の歌」 op.78
 ブ람ス:ヴァイオリンソナタ 第2番 イ長調 op.100
 C.シューマン:ピアノとヴァイオリンのための3つのロマンス op.22
 ブ람ス:ヴァイオリンソナタ 第3番 二短調 op.108

歌うヴァイオリンと称される美しい叙情性と正統的な音楽観に裏打ちされた溢れる音楽性、そして説得力溢れる音楽と底なしのバイタリティ、それに飾らない人柄でファンを魅了する大谷康子(おおたにやすこ)のデビュー50周年公演!最高峰のプレイヤーたちと共に名演を残してきた世界的アンサンブル・ピアニストのイタマール・ゴランを迎え、ブ람スのヴァイオリン・ソナタ全曲とクララ・シューマンの3つのロマンスをお届けします。

協賛公演 **The Violin Sonata Series 5人のマエストロ×多川響子【Vol.5】** 主催 Office TAGAWA

発売中 2025年5月18日(日) 14:00開演 自由席
 一般前売 ¥4,000(友の会会員¥3,600) 当日¥4,500(友の会会員¥4,000) 学生前売 ¥2,000 当日 ¥2,500

出演 佐久間聡一(ヴァイオリン)、多川響子(ピアノ)
 曲目 シューベルト:ヴァイオリンソナタ第2番 イ短調 op.137, D385
 プロコフィエフ:ヴァイオリンソナタ 第2番 二長調 op.94
 ショスタコーヴィチ:ヴァイオリンソナタ op.134

バロックから近現代に渡り数多くの「ヴァイオリンソナタ」が存在しますが、“ヴァイオリンとピアノ”という2つの楽器のみで繰り広げられる世界に焦点をあてた珍しいシリーズです。厳選された32曲を国内外で活躍する5人のマエストロとピアニスト多川響子が演奏します。第5回は元 広島交響楽団のコンサートマスターであり、最近YouTuberとしても人気を高めている佐久間聡一氏が登場!ぜひお楽しみください。

協賛公演 **Sun Bones Trombone Trio×クルトワ・ジャポン**
「Fête des Trombones」 主催 Sun Bones Trombone Trio

3/3(月)発売 2025年5月19日(月) 19:00開演 自由席
 一般前売 ¥3,500(友の会会員¥3,150) 当日 ¥4,000(友の会会員¥3,600) 学生前売 ¥2,500 当日 ¥3,000

出演 武内紗和子、岡村哲朗、石井徹哉、安久津理子、石村源海、今村岳志、久保田和弥、山下純平(以上トロンボーン)
 曲目 E.W.コルンゴルド(今村岳志編):「キングスロウ」よりメインタイトル
 S.フェルヘルスト:デビルズフルツ
 D.ブルジョワ:オステオプラスト
 ビゼー(今村岳志編曲):カルメン ほか

2018年のエヴォリューションシリーズ選出より毎年ザ・フェニックスホールでの公演を開催しているサンボーンズトロンボーン trio。7回目となる本公演では、東京を拠点に活動をする若手プロトロンボーン奏者で結成された「クルトワ・ジャポン」をゲストに招き、2重奏から8重奏まで様々なアンサンブルをお届けいたします。東西で活躍するトロンボーンアンサンブルの夢の共演、豪華絶頂な響きをご堪能ください!

協賛公演 **G.A. コンサルタンツ クラシック・スペシャル** 主催 コジマ・コンサートマネジメント
関西弦楽四重奏団
バルトーク:弦楽四重奏曲全曲 & 弦楽四重奏曲傑作選 第4回(全6回)

発売中 2025年5月26日(月) 19:00開演 指定席
 一般前売・当日 ¥4,000(友の会会員¥3,600) 学生(25歳以下)前売・当日 ¥2,000 ※友の会割引は前売のみ。限定数。

出演 関西弦楽四重奏団
 /林七奈、田村安祐美(以上ヴァイオリン)、小峰航一(ヴィオラ)、上森祥平(チェロ)
 曲目 ハイドン:弦楽四重奏曲 二長調「蛙」 op.50-6 Hob.III-49
 ドヴォルザーク:弦楽四重奏曲 第12番 長調「アメリカ」 op.96, B.179
 バルトーク:弦楽四重奏曲 第4番

他の作曲家の弦楽四重奏曲の傑作選と共に約2年に渡りバルトークが聴けるこの機会はとても貴重です。是非お聴き逃しなく!!

西村 朗、曲がった家を作る人

— 小味潤彦之



「曲がった家を作る人」と聞かされると「なんのこっちゃ」と「？」が3つぐらい飛ぶ感覚になるのですが、漢文を読むようなつもりでこの言葉を眺めてみると、「作曲家」という言葉が浮かび上がってきます。今回、3団体合同企画として開催されるコンサートシリーズのタイトルとなった「曲がった家を作る人」は西村朗(1953-2023)の『曲がった家を作るわけ』という2013年に出版された自伝的エッセイ集の題名をもじったものです。

この本のなかに「世紀末のヘテロフォニー」と題された一編があります。ヘテロフォニーはいわば西村朗作品のトレードマーク。題名にこの言葉が入った曲は、今回のコンサートでも取り上げられる《弦楽四重奏のためのヘテロフォニー》(1975/1987年)の他に4作品があるだけなのですが、「同じメロディを複数で奏でた時に、即興的な装飾や変化によって音程やリズムがずれる状態」であるヘテロフォニーの要素は、ほぼすべてと言ってもよい西村朗作品の中に見つけることができる技法です。インドネシアのバリ島で男性の声を使って表現されるケチャや日本の雅楽は、まさにこのヘテロフォニーの音楽。西村作品にもケチャや雅楽から直接インスパイアされた曲がありますが、「ずれること」が幾重にも重なる「響きの万華鏡」であり、決してヨーロッパの音楽には見出せない要素です。

西村朗は大阪に生まれ、高校卒業までを、大阪市城東

区鳴野の今里筋に面した自転車店を営む家で育ちました。今はJRと大阪メトロが交差する鳴野。400年前は大坂冬の陣で激しい戦があった場所です。豊臣方が陣取る大坂城のほど近くで、最後の砦のひとつでした。時代が変わって、1953年つまり昭和28年生まれの西村が少年だった1960年代は、日本が高度成長期の真っ只中であり、大阪の下町のひとつだった鳴野も活気にあふれた賑わいがあったことでしょう。さらに1970年の大阪万博が開催された時に西村は17歳の高校2年生。まさに人生を形作る多感な時期に、この一大イベントが開かれました。「武満徹やシュトックハウゼンが目の前にいた。現代音楽の作曲家を夢見る高校生にとって、これ以上の刺激と誘惑はない」と当時の心境を書いています。西村はこの年に初めてオーケストラ曲を書き上げ、コンクールの作曲部門に応募しています。

生前の西村は故郷・大阪への想いを改めて口にするには少なかったように思います。それでも、自身のアイデンティティが形成されたこの街が持つエネルギーに強い愛着を持っていました。「僕も死んだら大阪の土に還ろうと思った」と記した西村は今、両親とともに夕陽ヶ丘にある墓で眠ります。その死から2年が経とうとする2025年、様々な年代にわたる西村の作品がプログラムに並びました。まさに異次元へのスリップを味わうことができます。ぜひこの不思議な音楽をご一緒に味わいませんか。

小味潤彦之(こみぶち・ひろゆき) / 音楽評論家

1971年大阪市生まれ。関西学院大学、および同大学院で音楽学を学ぶ。関西地方を中心に演奏会のための曲目解説を執筆するほか、コンサートのプロデュースも手がけてきた。これまでに「朝日新聞(大阪本社版)」などで演奏会の音楽評を担当。1999年から2023年まで、住友生命いずみホールのステージマネージャーを務めた。ステージマネージャーとして2009年に第6回上方の舞台裏方大賞を受賞。関西学院大学、大阪芸術大学、武庫川女子大学非常勤講師、同志社女子大学嘱託講師。2023年7月から豊中市立文化芸術センター総合館長を務める。



© 越川智昭

*作曲家・西村朗氏の公演情報はP5に掲載しています。

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールをフェニックスタワー内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー8F TEL 06-6363-0211

Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断掲載を禁じます。

発行年月 2025年1月
発行 あいおいニッセイ同和損保
ザ・フェニックスホール
編集 谷 昌則
デザイン 松井桂三有限公司

